

府中市生涯学習審議会（平成21年度第5回） 会議録

1 日 時 平成21年9月7日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市生涯学習センター 3階研修室

3 出席者（敬称略）

（1）委員12名

西勝 義恵、坂本 明美、設楽 厚子、芝 喜久子、白井 紀子、鈴木 映子、
寺谷 弘壬、奈良 覚、野本 京子、平形 芳郎、三宅 昭、山内 啓司
加藤委員、澤井委員、比留間委員は欠席。

（2）職員4名

齋田文化スポーツ部次長(兼)生涯学習スポーツ課長
山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、市ノ川企画係長、大木

4 施設見学

5 府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」活動紹介

6 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

（2）前回議事録の確認

（3）八王子視察の報告

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ：委員 ➡：事務局

（1）視察について

八王子市の視察に行かれた方からの報告をお願いします。

➡ 8月19日午後2時から八王子市のクリエイトホールにおいて、当市の生涯学習審議会委員4名と事務局3名で視察した。八王子市側も、担当を含めて5名の方に対応していただいた。まずは審議会委員から報告をお願いします。その後、事務局から市としての視察の成果を報告する。

今回の視察でより一層の理解をすることが出来た。クリエイトホールは女性センターが主と聞いていたが、学習センターの機能も備えていることも知らされた。JR八王子駅から徒歩4分の立地で、駅と地下駐車場が繋がっていて、雨にぬれることなく行くことが出来る。

細長く11階の高層建てで、種々の機能施設が配備されている。府中市と同じよ

うに「生涯学習プラン」があり、それが八王子市の基本構想となり、それにもとづいて事業が実施される。府中市の場合は学習センター単独施設になっているが、八王子の場合は他の部署と共同で使用する多目的施設であると説明された。ほかに設備としてあるのは、南大沢の分館、川口分館等、八王子市は地域が広いので従来設置していた文化センターに替えて、それぞれの地域に学習センター機能が作られた。従来中央館というところがあったが、それを統合して駅前に複合施設を建てたという経緯があるそうだ。

このクリエイトホールの機能施設は府中市の学習センターと同様であるが宿泊施設はない。和室はあるが華道や茶道のための部屋とされている。特に注目されるのが学習相談について。府中市はこれからだが、八王子市では地域の選ばれた人は中心になって、学習相談窓口を作っている。これは、市から委託された形で八王子市の学習支援委員を兼ねているようだ。学習案内の内容は、ハイキング、レクリエーション、語学、家庭教育幼児教育など、それぞれの学習センターで活動しているグループに対して、学習相談に対応したグループを紹介する等、活動の相談コーディネーターの役割を担っている。

人数は24人の支援委員が登録されて、それぞれの地域で活動している。そのほかは、府中市と同じように会議室、映写室などの設備が整っている。府中市と違うところは、府中市は施設が市内に分散しているが、八王子市は集約されている。もう一つは、出前講座。府中市でも出前講座を実施しているが、八王子市は府中市と同じように活発に実施されている。生涯学習フェスティバルは、府中市と同様に開催されている。資料の中に、平成21年5月18日に策定した、八王子市生涯学習振興基本方策がある。今後の八王子市の生涯学習の方向性を示したもので、配布もされている。学習支援委員も、始まったばかりの制度である。八王子市の良いところ、府中市の良いところそれぞれあるが、学習支援委員の制度については、学んでも良いのではないかという印象を受けた。

ただ今系統的に報告されたので、私からは感想と補足を話す。クリエイトホールは学習センターの本拠という位置づけで、JRの駅からも京王線の駅からも近く、非常に利用しやすい。11階建てのビルという設備面でも優れているが、交通の便という意味でも優れていると思う。また、人材を活用して、市民の間に広げようという仕組みをとっている。それが、今も説明があった八王子市の学習支援委員。ボランティアで、幅広くハイキング、キャンプ、国際交流や家庭教育などの学習の支援をしている。2年ほど前から実施されていて、任期は3年。実験的な面もあるが、これを根付かせようという意欲は強いと感じた。八王子市自体が、生涯学習に対して熱意・意欲が強いと思う。2時間の説明を聞いていて、そのような印象を受けた。

断片的な情報になるが、市民講座の数が60～65程度。市民映画館としても運用している。地区の学習センターは公民館をベースに統合・発展させている。NPOボランティアが日本語講座を通常会話のレベルまで年40回程度実施している。大学が市内に23あるので、学生の支援、「いちよう塾」の支援を実施している。NPO支援センターには478のNPO団体が登録している。文化連盟が市民の文化芸術に関与し、ほかに体育連盟がある。6回コースのコーディネーター養成講座が実施され、修了者がコーディネーター会議という団体を設立している。八王子市を6地区に分け、学校を利用した「セカンダリースクール」を実施している。これは、校舎を使っていない時間帯に地域の人がいわゆる教育外授業を実施しているもの。高齢者の生きがいにもなり、受付に仕事などで子どもの社会教育にもなっている。これらの説明の中で、個人的に最も印象に残ったのは、ファシリテーターを担う学習支援委員だった。

詳細な報告をしていただいた。視察に関して質問はあるか。

現状で、八王子市民に問題を抱えているという意識はあるか。

長くいれば感じ取れることもあっただろうが、今回はそこまでは分からない。

➡ あえて言えば、広い土地なので、一律の政策がやりづらいという話は聞いた。

八王子市は小学校が70校、中学校が30校以上ある。

人口は府中市の倍以上、約55万1千5百人程度。

学習支援委員は、何年前から実施され、軌道に乗っているのか。

➡ 青少年委員に肉付けして発足し、今年で2年目に入る。1年目は、毎月会合を開いていたという。その中で、学校五日制への支援や子育てスクールという形の支援を実施している。委員会形式ではなく、委員長という役職を設置していない。全員が平等な立場で活動している。また、地区ごとに人数が偏らないように選考されている。

支援委員は、一ヶ月の間にどの程度仕事があるのか。

➡ 分野にもよる。人気の分野であれば頻繁に仕事があるが、そうでなければ数ヶ月に一度ということもあり得る。

➡ 一年目は毎月会合を開いていた。二年目も、一月に一度は事務局がコーディネートした何らかの会合に出る。体育指導委員と同じような行政委員として位置づけられ、月額1万2千円を支給している。青少年委員から学習支援委員に移行したのは画期的だと思う。

府中市にも青少年委員はいるのか。生涯学習との関わりはないのか。

➡ 子ども家庭部児童青少年課が所管している青少年委員がいるが、部が異なるので関わりはない。

八王子市のことで参考になる話を聞けたが、会議の終了時刻が迫っている。生涯学習センターは府中市の生涯学習の中心として機能すべき施設だと思う。今日の施設見学の感想を含めて、意見を聞かせてほしい。

生涯学習センターが16年前に設置された頃、ウィーンと府中市の友好を結ぶ事業に関わっていて、センターにも通っていた。その頃と比べると、多岐にわたる活動の拠点になっているという印象を受ける。ただ、競艇場周辺の住人としては、遠い。ちゅうバスの運行でどうにか来ることができるが、時間がないと難しい。八王子市の駅前のセンターが羨ましい。もっとも、立派な施設があるのだから、市内外から利用してもらう方法を考えるのが一番だろう。

府中に住んで30年以上になるが、施設全体を見たのは初めて。きっかけがないと身近なものとして捉えにくいところはある。悠学の会の説明にもあったが、情報を提供して広めていく必要があるのだと思う。これまでの実績から課題意識も持っていると思うので、教わりながら活用したい。他市にはあまりない素晴らしい施設なので、活用できると良い。

その意味では、生涯学習フェスティバルは絶好の機会。ただ、私たち生涯学習審議会自体も余り周知されていない。

広報にはしっかり載っている。

生涯学習フェスティバルを今まで1週間以上やっていたものを、今年は3日間とコンパクトにしているが、問題ないか。

- ➡ 昨年の開催後、参加者や悠学の会にご意見をいただいた。8日間のうち、5日間は市民発表会といって作品を展示する期間だったが、間延びして普段よりも来館者数が少なくなるという弊害があった。そのため、3日間に集約したという経緯がある。

参考に、生涯学習センターの施設利用者数は、平成20年度は延べ約38万人、19年度は41万人。19年度の内訳は、学習施設19万8千人、体育施設13万2千人、宿泊3,400人、図書館6万、その他1万5千。合計して、年間41万人。20年度は中央図書館学習室が新しくできた関係で学習施設利用者が減少し、年間38万人になった。これが施設利用者で、学習事業の特別参加者と生涯学習フェスティバルの参加者を加えた数が全体の利用者数になる。平成20年度、学習事業は94講座570回開講し、2万4千人。生涯学習フェスティバル8,113人。約3万人を加えるので、平成20年度の生涯学習センター利用者数は約41万人ということになる。

従って相当数の利用者がいるといえるが、広報、ホームページでの記事の掲載、生涯学習だよりを年4回発行して各文化センターなどで配布するなどして、市民に

周知を続けている。

生涯学習フェスティバルをコンパクトにしたのは、正解だったと思う。昨年、最終日に来館したところ、小雨が降った日で、閑散としていた。何をやっているのだろうという感覚を持った。濃縮して人が集まるようにしたら、もっと良いフェスティバルになると思っている。

年1回講演の機会を持つが、そのときに使う部屋しか知らなかった。見学をして、建物というだけでなく中身も充実しているのを知って驚いた。何年か前から講演の受付を手伝ってくれていたのは、悠学の会の方だったようだ。こういう方たちを府中市が任命したらどうかと、今年の講演のときに控え室で話をしていた。生涯学習センターは、場所は遠い。特に競馬場や競艇場より南の方には遠く感じられる。学習センター設立前には、府中グリーンプラザの1階を外国人留学生の交流の場にしたらどうか、などの案を検討していた。国際交流プラザが入っている府中駅北第2庁舎には、厳しい建物なので入ったことがないかも知れないが、生涯学習センターを分割して入れて、本館と橋渡しをしたらどうか。以前、教え子が文化センターでロシア語の講義をしたことがあるが、各町の文化センターでも学習事業を展開して、学習センターと連携していったらどうか。町田ほど好条件ではないが、連絡場所くらいなら置けるのではないかと、今日の話聞いていて思う。

6年くらい今の仕事をしているが、学習相談の窓口は、府中の場合寂しい。学習相談をボランティアでやろうとすると、毎日通わなければならない。それが問題だ。例えば、フェスティバルがあるから学習相談をやるといっても、人がこない。八王子市のコーディネーターの中にも知人がいるが、学習相談は非常に難しいと言っている。ボランティアだけでやっている、いない日がある、連日開けないというのが一番の課題だ。毎日開かないと、学習相談にならない。府中の場合、学習センターが全体から見て外れた場所にあるということであれば、例えば府中駅に情報センターがあるが、ああした場所にサテライト的に置けると良いと思う。そうした工夫をして、PRする方法を将来的に考えていかないとと思っている。

このセンターは、PTA連合会の全体研修会で年1回借りているので、知らないところではない。府中市は、生涯学習センターに各文化センターと施設が充実している、センターを中心とした活動が、生涯学習を推進するうえでポイントになってくると思う。先週の土曜日にスポーツ連絡会があった。6のスポーツクラブが前期にどのような活動をしたか報告を受けたが、剣道とバレーボールのクラブが学習センターを借りて夏の合宿をしたという。温水プールもあり、東部地区にとってみれば、身近に活用されていると思う。

以前から見学したいと思っていた。ゼミ合宿で使えるかなと思いながら案内を受

けた。国分寺などと比べると、進んでいるという印象を受ける。今日の説明を聞いて、悠学の会などボランティアの方がいるから運営できていると感じた。

生涯学習審議会委員になる自分自身が熱く燃えて、生涯学習の伝道をしたい。インフラ面で考えたときには、ちゅうバスの増便。例えば利用が集中する時間帯には1時間に3本くるなど、考えればできるのではないか。力を分散させると効果が薄くなるかもしれないので、学習センターに集中させた方が良いと考える。周知の方法も、広報、ホームページだけではなくて、回覧板に挟めるようにすれば、もっと知ってもらえる。今のままではもったいないと思うし、若い世代にアピールできるサウンドフェスティバルのような行事をもっと進めていければと思う。

悠学の会に参加していて、学習センターの講座内容をまとめて文化センターに配信できないかと考えている。ここでいい講座を出しても、文化センターまで行き着かないということもある。自転車で30分かけて学習センターに来ているが、それは講座に魅力があって来ている。文化センターでやっている公民館講座は、趣味の講座はあっても、学習に関する講座は不足している。これが充実・発展するシステムが作れないか考えている。

今日は施設の見学をし、悠学の会の活動を説明してもらい、参考になった。次回につなげていければと思う。

- ➡ 第2次生涯学習推進計画の中に、生涯学習センターの機能充実という項目がある。学習情報の提供などの機能を充実させるほか、民間の活力を取り入れるために指定管理者制度の導入を予定している。今日は時間がないが、ご意見をいただければありがたいので、今後よろしく願いしたい。

7 その他

次回開催日程について

[次回の開催について]

以下の日程で開催する事が決定した。

1 1月30日(月) 午後2時 府中市役所3階第3会議室

10月は熊本大会、埼玉大会が開催されるため休会とする。